

会 告

平成 16 年度農業土木学会大会講演会の参加申込み（第 2 報）	84
平成 16 年度農業土木学会大会講演会展示スペースへの出展企業等の募集	87
水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか 第 25 回国際問題シンポジウムの開催（再）	87
地域環境工学シリーズ 9「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」の発刊のお知らせ（再）	87
「農業土木学会学術基金」の募金について（再）	88
農業土木学会誌の愛称についてご意見を！	88
平成 16 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について（再）	88
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと	
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	89
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	89
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。	90
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 17 年表紙写真募集	91
水土文化研究部会第 1 回研究会開催	92
農業水利研究部会研究集会開催	92
学会記事	93

農業土木学会（本部）行事の平成 15・16 年度計画

農業土木学会（本部）15・16 年度行事について、下表のように計画いたしました。奮ってご参加下さるようお願いいたします。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中（）を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 16 年 3 月 4 日	国際委員会	第 20 回海外事情講演会	アフリカの農村開発	農業土木会館	72 巻 2 号
平成 16 年 3 月 15 日	国際委員会	第 25 回国際問題シンポジウム	水田農業をめぐるアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか	農業土木会館	72 巻 2 号
平成 16 年 9 月 7～10 日	平成 16 年度大会 運営委員会	平成 16 年度大会講演会		札幌市	72 巻 1,3 号

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年 3 月 18 日	水土文化研究部会	第 1 回研究会	水土文化の地平を展望する	つくば市	72 巻 1,3 号
平成 16 年 3 月 27 日	農業水利研究部会	平成 15 年度研究集会	2003 年冷夏と農業用水対応	東京	72 巻 3 号
平成 16 年 8 月 26,27 日	農村計画研究部会	第 26 回現地研修集会	みんなで描く山里ものがたり	高山市	72 巻 2 号

平成16年度農業土木学会大会講演会の開催について(第2報)

平成16年度農業土木学会大会運営委員会

(農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中)



平成16年度農業土木学会大会講演会は、平成16年9月7日(火)、8日(水)、9日(木)の3日間、札幌市豊平区の北海学園大学豊平キャンパスで開催されます。また、10日(金)には現地研修会を実施する予定です。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での発表申込みについては、本誌2004年1月号会告をご覧ください。

なお、講演発表を申込みされた方も、別途、参加の申込みが必要です。

本大会の申込みで、特にご注意いただきたい点

1. 参加される方には全員、参加費のご負担をお願いします。参加費には**通常参加費**と**特別参加費**があります。特別参加費には印刷製本講演要旨集が含まれません。
2. 7月15日までに参加申込みいただき、8月15日までに入金を確認された場合に限り、参加費の割引があります。
3. 通常参加費でのお申込みは7月15日が締切です。印刷製本版の講演要旨集は、7月15日までの**申込み数**だけを制作します。締切後の申込みならびに大会当日の入手はできません。
4. 7月15日までに参加申込みされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を大会の2週間前までにお届けします。
5. インターネットでの参加申込みを受付けます。農業土木学会のホームページを参照のうえ、ご利用ください。

1. 開催要領

- (1) **開会式**: 9月7日(火) 9:30~12:00
 会場: 北海学園大学豊平キャンパス
 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
 地下鉄東豊線学園前駅直結
 受付開始: 8:45~
- (2) **交流会**: 9月7日(火) 18:00~20:00
 会場: 札幌グランドホテル・グランドホール
 札幌市中央区北1条西4丁目
- (3) **講演会**: 9月7日(火)、8日(水)、9日(木)
 会場: 北海学園大学豊平キャンパス
 詳細は、プログラムとともに6月号に掲載の予定です。
- (4) **現地研修会**: 9月10日(金)
 A: **ニセココース** 8:50 道庁赤れんが庁舎前(北3条西5丁目)
 集合 9:00 出発 国営造成土地改良施設整備事業「双葉地区」(京極町・倶知安町) 道営地域用水環境整備事業「有島地区」(ニセコ町) 小樽市経由 18:00 頃札幌帰着
 B: **札幌近郊コース** 8:50 道庁赤れんが庁舎前(北3条西5丁目) 集合 9:00 出発 国営農地再編整備事業「中樹林地区」(南幌町) 道営中山間地域総合整備事業「薫りの郷地区」(由仁町) 16:30 頃新千歳空港 17:30 頃札幌帰着
 各コースとも、経路は変更になることがあります。また申込みが少ないときは中止する場合があります。

2. 参加費用

- (1) **参加費の区分と内容** 次の表をご覧ください。

参加費の区分と内容

	通常参加費		特別参加費	
	一般	学生	一般	学生
印刷製本版講演要旨集	あり		なし	
CD-ROM版講演要旨集	あり		あり	
大会概要集	あり		あり	
申込締切	7月15日(以降は受け付けません)		7月15日	大会当日
支払締切	8月15日		8月15日	大会当日まで
割引した参加費	一般 ¥11,000	学生 ¥9,000	一般 ¥5,000	学生 ¥3,000
正規の参加費(後払い含む)	¥13,000		¥7,000	¥7,000

(2) **交流会** 一般 6,000円 学生 3,000円

(3) 現地研修会

A, B コースいずれも、6,000円(昼食代を含む)

事前予約制とします。申込締切は7月15日。

3. 申込方法

参加申込みはホームページまたはファックスにて受付けます。業務省力化のため、ホームページからのお申込みにご協力ください。なお、電話でのお申込み・お問合わせはご遠慮ください。

(1) ホームページによる申込み

農業土木学会のホームページからお入りください。

<http://www.jsidre.or.jp/taikai>

(2) ファックスによる申込

参加申込書 (p.86) に必要事項をご記入のうえ、下記あ
てお申込みください。

名鉄観光札幌支店 気付 農業土木学会大会運営委員会
FAX 011-241-0154

4. 支払方法

参加費・交流会費・現地研修会費等の合計金額を、本誌巻末
綴じ込の郵便振込用紙でご送金ください。振込費用は大会運営
委員会が負担します。

郵便局備付の振込用紙をお使いの場合は、お名前、連絡先、
金額の内訳を明記のうえ、下記までお振り込みください。ただ
し、この場合の振込料金は振込人の負担となります。

口座：02730-3-93539 農業土木学会大会運営委員会

7月15日までに申込みをされ、8月15日までに入金を確認さ
れた場合のみ、参加費割引が適用されます。期日までに参加
申込をされても、ご入金がなかった場合には、大会当日の受付
にて正規の参加費を申し受けます。また、CD-ROM 版講演要旨
集の事前送付もいたしません。

なお、会社経費・公費等による後払いにも対応いたします。
ご希望がありましたら、参加申込みの際にその旨お申し出くだ
さい。追って請求書を送付いたします。ただし、この場合の参
加費は、正規の参加費となります。

お支払いいただいた参加費等の払戻しには、原則、応じかね
ます。

5. 要旨集の事前送付について

7月15日までに参加を申込まれた方全員に、CD-ROM 版講演
要旨集を、大会の2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は、原則、大会当日受付にてお渡し
します。ただし希望者には、1部につき500円の送料をいただ
いたうえで、大会の2週間前までにお届けします。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演発表の200字概要な
どを1冊にまとめた大会概要集は、大会当日、受付にて全員に
お渡しします。

6. 旅行の斡旋

本年度の大会運営委員会は、旅行の斡旋(宿泊、航空券等の
手配)は行いませんのでご了承ください。なお、本大会の参加
申込受付業務を受託している名鉄観光札幌支店が、旅行手配を
お手伝いしています。ホームページのリンクをご覧ください。

会期の9月上旬は、まだ北海道観光のハイシーズンです。ま
た他学会の大会(日本機械学会ほか)とも会期が一部重なって
おります。航空便、ホテルなど混み合うことが予想されますの
で、お早めに手配されることをお勧めします。

7. 昼食

講演会場での昼食時の弁当販売はいたしません。大学内の食
堂等をご利用ください。

8. 会場までの交通案内

開会式・表彰式・講演会：北海学園大学豊平キャンパス
札幌市豊平区旭町4丁目1-40 地下鉄東豊線学園前駅直結
北海学園大学の構内および周辺には駐車場が全くありません。
レンタカー、自家用車でのご来場は固くお断りいたします。

1) 新千歳空港から北海学園大学まで

a) 札幌都心行き空港連絡バス(北海道中央バスと北都交通バス
の交互運行、日中10分間隔) 地下鉄福住駅で下車、地下
鉄東豊線乗換え 栄町行き 学園前駅下車・大学に直結。

(約1時間、連絡バス820円+地下鉄240円=計1,060円)

b) JR 新千歳空港駅 札幌方面行き快速エアポート(日中15分
間隔) JR 札幌駅下車、乗換え 地下鉄東豊線さっぽろ駅
福住行き 学園前駅下車・大学に直結。

(約1時間、JR1,040円+地下鉄200円=計1,240円)

2) JR 札幌駅から北海学園大学まで

地下鉄東豊線さっぽろ駅 福住行き 学園前駅下車・大学に
直結(乗車時間約7分、200円)

JR 札幌駅南口よりタクシー約15分、約1,200円

交流会：札幌グランドホテル 札幌市中央区北1条西4丁目

地下鉄大通駅より徒歩約10分 JR札幌駅南口より徒歩約10分

9. 問合わせ先

申込に関するお問合わせ：

名鉄観光札幌支店 担当：吉川剛志，鈴木純一，堀川真吾

E-mail: jsidre@mwt.co.jp

FAX: 011 241 0154 ☎: 011 241 4986

大会全般に関するお問合わせ：

平成16年度農業土木学会大会運営委員会

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学農学部農業工学科内 FAX: 011 706 4177

E-mail: sapporo-taikai@agr.hokudai.ac.jp

平成 16 年度農業土木学会大会講演会 展示スペースへの出展企業等の募集

平成 16 年度農業土木学会大会運営委員会

来る平成 16 年 9 月 7 日（火）～9（木）、札幌市豊平区の北海学園大学豊平キャンパスで開催される農業土木学会大会講演会では、例年と同じく展示スペースを設ける予定です。展示を希望される企業・団体は、4 月 30 日までに下記へお申込み下さい。展示スペースについて詳細が決まり次第、折返しご連絡を差上げます。なお、展示スペースには限りがあるため、お申込みの方すべてに出展していただけない場合が

ありますので、あらかじめご了承下さい。

展示に関する問合せ先：

平成 16 年度農業土木学会大会運営委員会展示担当

〒062 8602 札幌市豊平区平岸 1 条 3 丁目 1 - 34

（独）北海道開発土木研究所農業開発部農業土木研究室

中村和正

E-mail:taikai@ceri.go.jp FAX : 011 842 9173

水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか
第 25 回農業土木学会国際問題シンポジウムの開催（再）

国際委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



多くの皆様のご参加をお待ちしております。



後援：農林水産省

1. 期 日 2004 年 3 月 15 日 12 : 30 ~ 17 : 30
2. 場 所 農業土木会館 6 階大会議室
3. テーマ 水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか
4. プログラム（予定）
 - 12 : 30 ~ 12 : 40 開会挨拶 千賀裕太郎国際委員会委員長
 - 12 : 40 ~ 13 : 30 基調講演 モンスーンアジアの水文環境の特殊性をどう見るか？
虫明功臣 福島大学行政社会学部応用社会学科教授
 - 13 : 30 ~ 14 : 10 話題 1 アジア地域の水を巡るパートナーシップ
吉田恒昭 拓殖大学国際開発学部教授
 - 14 : 10 ~ 14 : 50 話題 2 国際水田・水環境ネットワークと

OECD の水議論

馬場範雪 農林水産省土地改良企画課計画調整室課長補佐

14 : 50 ~ 15 : 05 休憩

15 : 05 ~ 15 : 45 話題 3 メコン河における水循環変動研究が目指すもの

増本隆夫（独）農業工学研究所地域資源部水文水資源研究室長

15 : 45 ~ 16 : 25 話題 4 湿潤地域の農業用水 水利用の競合性と潜在価格が変動する資源

山岡和純（独）農業工学研究所農地整備部用水管理研究室長

16 : 25 ~ 17 : 20 パネルディスカッション

コーディネータ 的場泰信（海外農業開発コンサルタンツ協会専務理事）

パネラー 虫明功臣, 吉田恒昭, 馬場範雪, 増本隆夫, 山岡和純

17 : 20 ~ 17 : 30 閉会挨拶

5. 定員 100 名程度

6. 資料代 一般 4,000 円 会員 2,000 円
（当日会場で申し受けます）

7. 問合せ・申込先 （社）農業土木学会国際委員会担当 吉本
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

地域環境工学シリーズ 9

「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」の発刊のお知らせ（再）

このたび、地域環境工学シリーズ 9「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」が 2 月下旬に発刊されることになりました。ご希望の方は、下記の要領でお申し込み下さい。なお、内容は次のようになっています。

目 次

- ・わが国の畑作の歴史と特徴
- 1. わが国における畑作の歴史 2. 営農形態別の特徴
- 3. 畑整備の現状 4. 国際情勢, 社会情勢の変化 5. 中山

間地域における畑整備

・畑整備の基礎

1. 作物と水 2. 畑地基盤と畑作農業 3. 畑地の整備手法
・畑整備の今後の展開方向

1. 畑整備における技術的課題 2. 新たな畑整備の展開

・畑整備と地域環境管理

1. 土壌侵食防止 2. 持続的農業のための土管理 3. 畑作
と環境保全 4. 環境との共存をめざした畑作の将来像

記

1. 判型 A5判 約210ページ

2. 販価 会員特価 2,900円(内税,送料学会負担)
定価 3,300円

3. 申込方法 郵便振替(00160 8 47993),現金書留でお申込み下さい。

4. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4
(社)農業土木学会事務局 担当:関根
☎ 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

農業土木学会誌の愛称についてご意見を!

農業土木学会誌編集委員会

昨今の農業土木を巡る環境の変化に伴い、現在の「農業土木学会誌」という名称が、その内容を的確に反映しているか、また気軽に手にとって読んでもらえるのだろうか、読んでもらえる誌名とは?等々について、学会誌編集委員会では、平成14年からの2年の間、委員会のたびごとに時間をかけて議論をまいりました。その結果、「農業土木学会誌」という名称はそのまま残すこととして、愛称をつけることといたしました。

そして、平成15年12月委員会において、会員からの意見を勘案しつつさらに議論を深め、下記の5案を学会誌編集委員会案として示し、改めて会員の皆様のご意見をいただくことといたしま

した。

ご意見は、たとえば、「もう少し表現をやわらかくしたら」とか、「こんなのはどうか」とか、どのようなご意見でも結構です。

平成16年4月末を締切として、学会あてのE-mail、学会ホームページ上の掲示板、落書き帳、学会誌のFAX通信、あるいは郵便等でお寄せ下さい。たくさんのご意見をお待ちしております。

E-mail:suido@jsidre.or.jp 学会HP:http://www.jsidre.or.jp

委員会案:農業土木、水土の知、農と環境、水と土と農、地域と環境

「農業土木学会学術基金」の募金について(再)

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成15年度までに38件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円以上(何口でも可)

法人会員一口 50,000円以上(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業土木学会学術基金

郵便振替:00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

平成16年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について(再)

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成16年度は、規定第4条(1)の「特定分野および学際的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の

推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてでお申込下さい。

記

1. 援助の対象：農業土木学会の会員（学生会員含む）、または会員によって構成されるグループ
2. 援助方針
 - (1) 農業土木に関して特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
 - (2) 平成16年度中（平成16年4月から17年3月）に海外で開催される国際学会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を

行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件 15万円程度を限度とする。
4. 申請締切 平成16年3月22日
5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。
6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社) 農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering）を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊されます。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）

⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000円/年/4冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は241名（3月現在）であり、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め年間数百万の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering）を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊されます。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor (13名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社が

らの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田

畑輪換等 である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board **には世界各国から斯界の権威が就任しています。**
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO(Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA (Japan) , Dr . Ke Sheng CHENG(Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

72巻・73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第72巻9号～73巻5号までの小特集のテーマ（予定）

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切（必着） （A4判用紙、1,500字以内）	原稿締切
9号 国際コメ年（RICE YEAR 2004）（仮）	公募なし	平成16年4月15日
10号 農業土木と特許（仮）	平成16年3月31日	平成16年5月14日
11号 農村と都市の交流（農村観光）（仮）	平成16年4月30日	平成16年6月15日
12号 国立大学法人化（仮）	平成16年5月31日	平成16年7月15日
73巻 1号 水土文化遺産（仮）		
2号 ブロック編集担当号の予定です。		
3号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発、食糧自給率（仮）		
4号 流域の水環境管理（減水深を含む）（仮）		
5号 技術者資格（仮）		

72巻10号テーマ：「農業土木と特許（仮）」

趣旨 21世紀は知的創造時代といわれ、研究開発を進展させ、その成果を蓄積・有効活用することが重要な課題となっております。研究開発や発明、デザイン、著作等は知的財産として定義され、わが国では「特許法」、「実用新案法」、「意匠法」、「著作権法」の諸法のもとに知的財産権制度が整備され、これらの権利の保護と適正な運用が図られています。

近年、農業土木においても研究開発が高度化、細分化されるとともに、バイオ、エレクトロニクス、情報通信などのいわゆるハイテク分野の研究成果の利用が不可欠となるなど、研究開発のボーダーレス化も急速に進行しており、知的財産権の保護および有効活用を取巻く環境はより複雑なものとなっています。

一方、われわれ技術者はこれまで、特許権などの知的財産権の運用に関して関心が薄く、新技術の利用やソフトウェアの著作権等についてトラブルに巻き込まれる事例もしばしば見られており、知的財産権制度は、新技術を保護育成する一方、自由な研究開発に一定の歯止めをかけるという二面性を有しています。

本特集では、事業や研究開発への新技術の導入、海外技術協力、産官学における共同研究などを進める過程で生じる知的財産権との関わりや、有効な利用方法などについて、事例紹介やご意見の投稿をお待ちしております。

72 巻 11 号テーマ：「農村と都市の交流（農村観光）（仮）」

農村と都市の交流は重要なものと言われてはいますが、今ひとつその目的や方法が明らかではありません。

たとえば、農村と都市の交流の大きな柱としては、農村観光があります。世界旅行産業会議 (WTTIC) の調査では、観光の産業規模は、97 年には 3 兆 4 610 億ドル（直接、間接を含む）で、全世界 GDP の 11.6% を占め 2010 年には世界の GDP の 12.5% に達し、「21 世紀最大の産業」となると予測されています。日本でも、平成 14 年 2 月、第 154 回国会における小泉内閣総理大臣の施政方針演説で、海外からの旅行者の増大とこれを通じた地域の活性化を図るとの方針を示すなど、観光振興は内閣の主要政策課題となっており、第 2 次小泉改造内閣においては、歴代内閣として初めて観光立国担当大臣が設置され、石原国土交通大臣が同担当大臣に任命されました。

では、観光振興のための方法は何か？観光立国関係閣僚会議で決定された「観光立国行動計画」では、「日本の魅力・地域の魅力の確立」が主要な方法論の一つとして取り上げられています。国際観光客数が世界 1 位のフランスでも、観光客の宿泊割合が多いのは、パリのあるイル・ド・フランス地域ではなく、南仏のプロバンス・アルプ・コートダジュール地域やローヌ・アルプ地域です。

これに対応するかのように、国土交通省から平成 15 年 7 月「美しい国づくり大綱」が、農林水産省から平成 15 年 9 月「水と緑の『美しい里』プラン 21」が提出され、平成 16 年 2 月の国会では「景観法（仮称）」の制定、平成 16 年度中の施行が目指されています。

そこで今回は、農村と都市の交流（農村観光）をテーマにとり、直接的な観光だけにとどまらず、農村・地域の魅力の維持、向上、創造、発見、理解、再評価などの方法、事例、研究、また農村・地域の良好な景観の維持、向上、創造、魅力あるむらづくりの取組み支援などの方法、事例、研究の投稿をお待ちしています。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか —平成 17 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

表紙写真の公募には、例年多くの方から応募いただいております。学会誌編集委員会では、平成 17 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌第 73 巻（平成 17 年 1～12 月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受け付けております。組写真では、3～4 枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. 趣 旨 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募することとしました。皆さんの身近なところやふるさとで、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイ

ズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. 枚 数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締 切 平成 16 年 9 月 30 日（必着）

5. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家で構成）で 12 点を選びます。

6. 結果発表 学会誌 73 巻第 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 17 年度大会会場でパネル展示します。

7. 賞 品 入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。

8. 応募資格 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。

9. その他 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ）を記入して下さい。また、対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

10. 宛 先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会
「表紙写真公募」係

水土文化研究部会第1回研究会の開催について

—水土文化の地平を展望する—

(農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中)



1. 研究会の内容

先祖から受け継がれた「水土の知」をこれからの農業・農村環境整備に活かすべく、水土文化研究の対象を幅広く探り、その持つ可能性について展望します。パネラーとして、農業土木学・歴史学・民俗学といった連携諸分野の先生をお招きし、さまざまな観点から話題を提供していただき、ご参集の皆様とともに議論を深めていきたいと思っております。部会員以外の皆様の参加も歓迎いたします。学会員皆様のご参加をお待ちいたします。

2. 主催：農業土木学会 水土文化研究部会

共催：独立行政法人農業工学研究所

3. 日時 平成16年3月18日(木) 13:30~16:30

4. テーマ 「水土文化の地平を展望する」

5. パネラーおよびコーディネーター

パネラー

川尻裕一郎 (全国土地改良事業団体連合会技術顧問 農業

土木学)

佐藤 常雄 (筑波大学農林学系教授 日本農業史学)

小川 直之 (國學院大學文学部日本文学科伝承文学コース
教授 日本民俗学)

コーディネーター

広瀬 伸 (農林水産省東海農政局整備部 次長)

5. 会場 (独) 農業工学研究所 5階大会議室

6. 参加申込

参加をご希望される方は、ご芳名、ご所属を下記連絡先へ、ファックスもしくはメールにてご連絡下さい。

7. 参加費用 無料

8. 連絡先 〒305 8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

(独) 農業工学研究所農村計画部集落計画研究室

担当：山下

☎029 838 7668 Fax 029 838 7610

E-mail yamash@affrc.go.jp

農業水利研究部会平成15年度研究集会開催のお知らせ

—2003年冷夏と農業用水対応—

(農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中)



農業水利研究部会では、平成15年度研究集会を下記のとおり開催いたしましたので、ご参加いただきますようお願いいたします。

記

1. 日時：平成16年3月27日(土) 14時~16時

2. 場所：砂防会館別館3F「立山」

東京都千代田区平河町2-7-5

(地下鉄永田町駅4番出口から徒歩1分)

3. テーマ：「2003年冷夏と農業用水対応」

4. 講師：磯谷宗徳 (農林水産省農村振興局計画部土地改良企画課)

郷古雅春 (宮城県産業経済部農村基盤計画課)

5. 参加費：無料 (どなたでも参加できます)

6. 問合せ：農業水利研究部会事務局 (東京農業大学内)

☎03 5477 2337 (中村好男)

E-mail nyoshi@nodai.ac.jp

☎03 3261 8390 (砂防会館本部：当日)